随　　想

向うところを知らしめること

茅　　誠　　司*

「鉄と鋼」のために何か随想を書くようにとの御命令を拝受してしまつてから，さて何のことを書いてよいのか迷つてしまつた．その迷いのために原稿の期限をすぎても書きかねて4,5日の静養のために軽井沢へやつてきたところ，ここに電話が待ちかまえていて，とうとう書き初めなければならなくなつた．

東京から軽井沢へくる車の中で新聞に眼をとおしてみると，一番大きい標題は，医師の保険医総辞退命令が昨7月31日の交渉で一応撤回されたことである．その医師会と厚生省とのトラブルについては世間に種々様々の批判が流布されてきたが，その大部分は医師会の強引さに対して最早我慢できないというようなものであつた．私はこの問題について，畏友中山伊知郎氏から工業化と家庭工業の争いであると批判されたのをきいたが，その観点に立つてこの事件をみると事柄が極めて明白になるのを知つて，非常に興味を覚えた．その意味はこうである．現在の医師の仕事は例えていえば家庭工業的，又は名人芸的の要素を多分に含んでいる．若しも心電図，脳波，呼吸音等をグラフに画かせ，これを電子診断装置にかければ，直ちに病気がわかりまた直ちにその治療に必要な薬とか其他を知ることができるとすれば，これは充分工業化されたものとみてよろしい．しかし現在の段階ではまだ名医と凡医とがあることでもわかるように家庭工業的なものであるというのである．

現在の保険医制度があまりに規格化されて，そこに自由がなく，従つて向上がない．これは医師として耐えられない制度であるというのは誠によくわかる．このような見地からすると，経過に迂余曲折はありその間にとつた態度に適当でないものがあつたとしても，問題の要点は，工業化の段階にないものに対して工業化を強制した点にあると思う．

保険医総辞退中止の件はこれまでとして，昨今の新聞にとりあげられた大きな問題は何といつても新しいソ連の共産党綱領の草案であると思う．私は専門が違うので詳しい批判はできないが，今日どの人間にとつても最も大きい問題は東と西の対立である以上，この草案に対しても一応目を通す義務があると思つた．

私はその草案をここに紹介する積りはない．只一点，それはソ連は十月革命以来社会主義国家の建設に努力した結果殆んどその目的を達成し，次の段階は共産国家の建設にあり，その目標は「各人からはその能力に応じて，各人へはその労働に応じて」から「各人からはその能力に応じて，各人へはその要求に応じて」に変つたとしている．そしてこの段階においてはプロレタリア独裁は終結するものとしている．

私は，そのような目標が果して達成されるものか否か，また仮りに達成されたとしてそのような社会がほんとうに各人にとつて望ましいものであるか否か，それはわからない．しかし私共のここに感ずることは，このような明確な国家目標をもつているということの重要性である．

かつて日本は戦前に富国強兵をもつてその目標とした．今日のわが国で目標らしいものは所得倍増であろう．これも誠に結構なことで今日の状勢をもつてすれば10年を経ないでこの目標は達成されるかも知れない．この目標の達成を目指して「10年後における科学技術」の答申も作られた．私共はこの答申を只空文に終らせたくない．新任早々三木科学技術庁長官はこの答申内容の実現に努力すると新聞記者に語つておられる．即ちこの目標があることは私共を勇気づけてくれる．しかしこれを共産党草案の目標と比べると，何としてもその規模が小さすぎる．青年をして奮起させる気迫が足りないのではなかろうか．

* 東京大学総長．理博．

昨年私は2回に渉つて沖縄に招待された．沖縄は現在アメリカの軍政下にある．その沖縄の教職員の大会に出席したとき，それに出た職員千数百名の一大合唱を聞いた．それは合唱というよりは祈りであつた．その目標は「日の丸掲げて，祖国への復帰」だつた．

沖縄にもいくつかの政党があり，その目標はそれぞれ異なつているが，共通なものは，祖国への復帰である．この共通の祈りを沖縄の人達は持つている．

終戦の年6月，全島は戦の坩堝と化した．ある孤島では小学生も銃をとり戦争したとゆう．本島の南端，巨岩累々いたるところに「健児の墓」がある．これは沖縄師範の生徒と職員数百名が自決したところ，その顔には安堵の表情さえあつたとゆう．その悲惨な経験を経て沖縄は本土と違つて今もなおアメリカ軍政下にある．このことは沖縄人の承諾したものではなく，アメリカと日本との間で承認されたものである．

にも拘らず，沖縄の人達に接してあるバックボーンを感ずるのは何故であろうか．私の解釈は，彼等は共通の悲願「祖国への復帰」を持つているからだ．

戦争直後，食うと着るとに忙しかつたころ私の子供に「大きくなつたら何になる」と聞いてみた．すると「職業野球の選手になる」ときた．当時子供達の目標らしいものはこれ位しかなかつたらしい．このように目標のない国民の努力は，いわば無方位に向けられたベクトルの和のようなものだ．

私は今から6年前に中国に招待を受けて3週間に渉つて北は満州から南は広東に及んでその学術施設を見学する機会をえた．その時，例えばかつての奉天，今の審陽に新設された金属研究所を所長の案内で見学したが，当時は万事建設中で，様々の設備が据えつけられている所で，実際に研究らしい研究の行われていたのは金属の減衰係数の測定位いのものであつた．所長も別れに際して，あと 10 年後に今一度来訪して下さい．そうしたら研究結果について討論することができませうと挨拶した．従つて私共は科学技術の面では中国で何等見るべきものに接することができなかつた．

しかし，私共を感嘆せしめたものは，中国国民全部(勿論私共の接触した)が共通の目標を持つていることであつた．それは「今こそ，自分達の手で自分の国を建てる時だ」であつた．かつて日本に電子顕微鏡の国際会議が開かれたとき．中国から数名の代表がこれに参加して，日本の電子顕微鏡の技術水準に非常に感心し，帰つてから中国科学院を通じて，私の畏友，当時の電子顕微鏡学会長谷安正君を北支に招いた．その招待から帰つたとき谷君の土産話が私には非常に印象的だつた．それはこんな話である．同君が北京に着いたとき，講演の予定日を3日だけ延期して欲しいという交渉を受けた．そこで理由をきくと，北京の市民が雀取りを3日間する為だという．何でも中国には5悪があるとのこと，それが，雀，鼠，蠅，蚤，蚊らしい．この雀を平らげる方法をきいてみると，鐘や太鼓を連打して雀を驚ろかすと，雀は夢中で飛廻り，30分もすると疲労の極地上に落下する．それを取押えるんだという．この雀狩りの結果を後できいたところ北京の二百万の市民が3日間雀退治に明け暮れて，遂に 40 万羽を取つたとゆう．

これは私達日本人にとつては誠に馬鹿々々しい話で，若しわれわれ日本人に雀取りをやれといわれても誰一人振返る人もいないと思う．しかし中国では，恐らく馬鹿々々しいと思つた人も多いと思うが，この手で国を建てるんだという意欲が共通していて，指導者の命令に喜んで従つているらしい．大きなダムの完成に学生達がシャベルとモッコを持つて手伝いに行く写真を見た人は多いと思うが，これもその現れに他ならない．それのみか，中国には泥棒がいなくなつたと云われている．われわれの場合でも置き忘れた品物が全部戻つてきた経験からこれはある程度正しい見方と思う．即ち共通の目標を持つてその達成に懸命になると，その国民の道徳さえも高まるようである．

私は共産主義そのものに対しては非常な疑問を持つが，明確な国家目標を打ち建てて，その達成に向つて努力している国民の姿は誠に尊いものと思う．

所得倍増計画は当面の目標である．しかし更にその遙か向うにある目標のおぼろげな姿でもをわが日本国民は見ているであろうか．私共科学技術に携わる者にとつても，科学技術の終局の目標は，その理想境の実現にあることを忘れてはならないと思う．この意味からも，現在の日本にとつて必要なことは「向うところを知らしめること」である．